Vietnam Practice 07

私たちのくらしと世界とのつながり～衣・食・住～

神戸国際大学附属高等学校　担当教科 ： 家庭科　　澤江　由奈

■実践教科 ： 家庭基礎
■対象学年 ： 高校2年生
■指導時数 ： 8時間
■対象人数 ： 156人（4クラス）

◆教師海外研修を通して感じたこと

ベトナムは私が日本の子どもたちに伝えたい大切なものが残っている国だった。訪問先でもっとも感じたことは「家族」、「仲間」、「コミュニティ」を大切にする心、人と人との絆である。私たちに微笑んでくれた人々の笑顔はその証だったのではないだろうか。子どもたちの学びに対する積極的な姿、夢を話す人々のキラキラ輝くまなざしは印象的で、一時の訪問者に過ぎない私の心を揺さぶる出会いの連続だった。

そして、ベトナムの発展のために現地の人々と共に尽力する日本人がこんなにもいること、よりよい社会を築くために努力するベトナム人の心の豊かさを思うと、この国に住む人々が描いている社会が一日も早く訪れて欲しいと祈らずにはいられなかった。

また、文化の違いに触れるたびに私自身が気付いていなかった自身の心の声に気付く機会を幾度となく得ることができ、研修は貴重な財産となった。

人々との出会いで感じたすべてに感謝したい。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

1. ベトナムに対する認識
   ①生きるために働く、働かされている
   ②衛生環境が整っていない
2. 授業場面
   ①毎授業じぶんの考えを表現させることが大切だと思いながらも、講義型学習に陥りがち
   ②時間に追われる授業展開
3. 私の心
   「これは無理」「これしかできない」とネガティブに物事を捉える傾向

AFTER

1. ベトナムに対する認識
   ①仕事に誇りを持って働く人が多い
   ②都市においてはそんなに日本と変わらない
2. 授業場面
   ①参加型学習をすすめるための手法の活用
   ②生徒同士の分かち合いの時間を取るよう、待つことができるようになった（潔くあきらめなければならない内容も出てくるが･･･）
3. 私の心
   「とりあえずやってみよう」「こういう方法もある」と前向きに物事を捉える心を持つようになった（かな？）

授業の詳細

1．カリキュラム

（1）実践の目的/背景

家庭科では、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目的としている。そのために家族や生活の営みを人の一生との関わりの中でとらえ、実際の生活の場で実践できるようにし、できる限り身近な問題に結びつけ、生活課題として取り組むことで、問題解決能力を育成するよう努めている。

本校は国際社会に貢献できる人材の育成を目指している学校である。それは地球規模の課題に目を向け、これまでより視野を広げ、積極的に関わる力をつけ、同時に私たちの身近で起こっている様々な問題や課題に目を向け、持続した行動する力を養うことにあると考える。

私たちのくらしが世界とどうつながっているのか、その課題は何か、解決するためにできることは何か、未来を築く一員として共に生きていく力を育む一助としたい。

（2）授業の構成（生活を営むー食べる・着る・住まうーの中で実践した一部を記載）

※8 回に分かれた実践、8 時間の連続した取り組みではない

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
１・２時限目 ー食べるー 食料資源 食糧問題と飢餓	・世界を取り巻く食糧問題について知る ・食糧の多くを海外に依存する日本の食のあり方を考える ・飢餓や栄養不足で苦しむ国々が存在することを認識し、広い視野に立って食に目を向ける ・ビデオ視聴 ・エコレシピを考える（宿題）	・パワーポイント ・ＷＦＰハンガーマップ ・ビデオ「世界一受けたい授業（シーラ・シスル氏）」 ・ランキング ・教科書 ・ワークシート資料１
３時限目 ベトナムの食 ４時限目＋昼休み 調理実習	・ベトナム料理の紹介する ・ベトナムの食材を味わう ・隣国の料理を作ろう （材料調達ができず、前年と同じ韓国料理に変更） ・ごはん食をすすめる標語を考える（宿題）	・ベトナムで写した写真 ・食材（ライスペーパー、ニョクマム、インスタント食品 Aji‐ngon、ベトナムコーヒーなど） ・レシピプリント ・標語応募用紙
５・６時限目 ー住まうー ベトナムの 住環境に配慮したくらし	・気候風土に適したくらしについて日本の伝統的な住まいとベトナムの伝統的な住まいを比較する ・ベトナムの環境に配慮したくらしと日本のくらしを比較し、自分の生活を振り返る ・家庭で行なっているゴミを減量化する工夫をレポートする（宿題）	・パワーポイント ・フォトランゲージ ・教科書 ・ワークシート

７・８時限目 ー着るー 国際化する衣服 低価格商品と児童労働 　フェアトレード	・衣服がグローバルな生産体制で作られていることを理解する ・低価格商品がどのような労働のもとで作られているかその背景にあることを考える ・児童労働の実態を知り、フェアトレードについて考える	・民族衣装（着物、アオザイ、チマチョゴリなど） ・因果関係図 ・新聞記事 ・教科書 ・ワークシート

２. 授業の詳細

【１・２時限目】　ー食べるー　食料資源

・日本の豊かな食生活が輸入食品で成り立っている裏で、大量の食品が廃棄されていることを認識する。

・ハンガーマップから見えてくる問題を読み取る。

・食の側面から見た私たちの消費活動が地球規模の課題とつながっていることに目を向け、問題解決のための取り組みを考える。

①世界の人々の状況を知る。（以下パワーポイントを使ったクイズ形式の抜粋）

②飢餓の現実と食糧問題を知る。（ビデオ視聴「世界一受けたい授業」）

・飢餓が起こる原因をあげさせる。

・はじめて知った事柄をあげさせる。

・食糧問題について考えたことをまとめ、発表し、問題を共有する。

③日本の食糧事情について考える。

・数字で日本の食糧事情を説明し、今の食生活が輸入で成り立っていること、その裏で大量の食糧が廃棄されていることを考え、実生活でできる取り組みを考えさせる。（宿題としてエコレシピを考えさせる）

・日本の食糧自給率をあげる取り組みと、その際考えられるハードル（問題）をあげ、自分の意見をまとめさせる。

④ハンガーマップから慢性的な飢餓状態にある地域がどこに集中しているのか、その背景を考えさせる。

⑤食糧が平等に配布されれば地球上のすべての人が十分な量の食糧を得られることを伝え、食糧問題を相互依存として解決させないよう、グローバルなしくみを改善することが必要であることを考えさせる。

⑥世界の食糧問題を解決するための取り組みをランキングで行い、自分の価値観をふりかえり、クラスの中でも多様な価値観があることを知る。

■生徒の感想

◆食べ物を平等に分けると世界中の人が飢えずに済むはずなのに、こんなに簡単なことができないのは残念だと思う。
◆今の世界の状況は簡単に変えられないけれど、自分にできることをしようと思った。
◆毎日当たり前に食事をしているけれど、日本の食糧自給率を聞いて突然食べることができなくなる日が来ても不思議ではないと思った。日本で消費するものはできるだけ日本で作るべきだし、そのための環境作りが必要だと思う。

【資料1】 ワークシート

⑦食糧を無駄にしないために、家庭でできる取り組み（エコレシピ）を考え実践する。（宿題）

※下記は生徒が提出したプリントの一部

■生徒の感想

◆メインの食材が大根の皮なので、捨てるはずのものから料理が生まれるなんて、エコにもなるし、作るのも簡単だから夕食に一品欲しいときにいいと思う。
◆大根の葉っぱなんて、捨ててしまう人が多いけど、ビタミンが多く含まれており体にとても良い食べ物です。エコを意識して食材を探してみると新しい発見があった。
◆父親が豆腐屋なのでおからを使いました。一日に約 950kg もおからがあまって処分する費用がかかっているから、それを助けるために考えました。食糧問題について勉強したばかりだったので、このおからで何とかできないかと思いました。

【３時限目　４時間目＋昼休み】　－食べる－

・ベトナムの食文化を知り、違いを認める心を養う。

・調理実習を通じて、協力する意味を再確認する。

①ベトナムの地理的概要、歴史に触れる。

・ベトナムの米の輸出量が世界第3位であること伝え、米粉からできているものを紹介する。

・写真を使ってベトナム料理とフランス文化の関係を紹介する。**【資料2】**

・ベトナムで収集した食材や日本で調達したベトナムの食材を紹介し、味見する。

②次回の実習で隣国の料理を作るため、その手順とポイントの説明。

※今回は直前まで食材の調達を試みたが思うように進まず、前年に実施した韓国料理（ピビンパとわかめスープ）の実習となった。

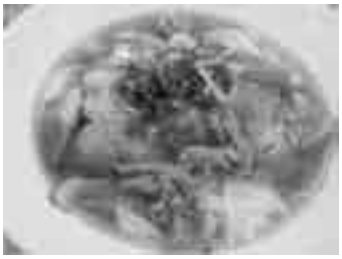
③調理実習

④ごはん食推進標語を考える。（宿題）

・兵庫県が食育を推進するために行なっている取り組みに応募する。

【資料2】 生徒の知っている料理やその地域の伝統料理を紹介

特にバクザン省の小学校とモーハイ村でいただいた料理は、私たちをもてなすために尽くされた料理であることを説明

		
ブンチャー（麺＋焼きつくね＋香草＋パパイヤスープ＋揚げ春巻き）	フォーボー（牛肉入り米麺、うどん風）	生春巻き（香草がたっぷり）
バインセオ（ベトナム風お好み焼き）	バクザン省の小学校でいただいた料理	モーハイ村でいただいた料理

■生徒の感想

◆先生の話や写真を見るとベトナム料理は種類も豊富でおいしそう。日本とそんなに変わらないと思った。ピビンパもおいしかったけど、ベトナム料理の実習がしたかった。

◆ベトナムは米作りが盛んで、ご飯としてだけではなく麺やライスペーパーにして使うなど自分たちの国で取れているものをうまく使っていると思う。

■生徒の感想

◆窓にガラスが入っていない、柱が固定されていないなど驚くことも多かったけれど、気候に合ったくらしをしていることが分かった。
◆外観は貧しそうだけれど、電気も水洗トイレもバイクもあって、そんなに日本と変わらないと思う。けれども、水をすごく大切に使ったり、とうもろこしの芯を干してそれを燃料に使えるようにしているのはすごいと思う。日本でも環境が注目されているけれど、こういうちょっとしたことを意識することが大切なんだと思う。
◆地域の人が助け合ってくらしていることを聞き、日本とは違うと思った。

【７・８時間目】　ー着るー

・衣服がグローバルな生産体制で作られていることを理解する。
・私たちの被服の消費活動が地球規模の問題とつながっていることを知り、特に低価格商品がどのような労働のもとで作られているか考える。
・児童労働の実態を知り、フェアトレードについて考える。
①着物、アオザイ、チマチョゴリ民族衣装を紹介する。
②衣料品の輸入浸透率のグラフから分かることを考える。
・自分たちの身に付けているものがどこの国で作られたものか調べ、発表する。
・日本の衣服輸入の主な相手国を予測する。
（ベトナム製の衣服やスポーツシューズが多くあることを伝える。）
・なぜ、それらの国の製品が多いのかを考える。
③グローバル化時代の生産がもたらす問題を、因果関係図を作成させて考えさせる。
・低価格商品の背景に隠されている事柄をあげ、それに関わる問題を派生させる。
④児童労働の実態を知り、それを解決する方法を考える。
・サッカーボールを縫うパキスタンの子どもの実態を紹介した記事を使って、感想を書く。
・児童労働をなくすにはどこを改善すれば良いか考え、因果関係図を使って発表する。
⑤フェアトレード商品があることを知らせる。

■生徒の感想

◆ボール１個を縫ってもたった１５～３０円くらいにしかならないのに驚いた。子どもだからといってあまりにもヒドイ。
◆今まで安い服がどのようなしくみで作られたものかなんて考えたこともなかったけれど、派生図を書いていくうちにいろんなことが分かり、悪循環になっていることに気付いた。このしくみを変えていかなければ、世界は良くならないと思う。

◎所感

生徒は自分の生活が世界とつながっているという認識がほとんどなく、授業でそれらを取り上げてもイメージがわかなかったり、なかなか自分の実生活に置き換えて考えることができなかったようである。しかし、映像や写真、実物といった視聴覚教材はインパクトがあったようで、生徒は興味を持ってくれた。授業後の感想では、貧しさや環境悪化の悪循環に対して仕方がないといった否定的な意見もあったが、自分にも何かできるのではないか、といった前向きの意見が多かったことは嬉しかった。

【５・６時間目】　－住まう－

・気候風土に適したくらしを知り、現代の住生活の課題を考える。

・居心地の良い住まいと地域環境について知り、自ら行動することの重要性に気付かせる。

・身近な環境問題に目を向け、一人ひとりが生活の中で取り組めることを持続させることが社会全体の環境問題を解決することにつながっていることに理解させる。

①住まいと環境 **【資料3】**

・既習の日本の伝統的な住まい（合掌造り）と気候風土の関係を振り返る。

②ベトナムの伝統的な住まい（フォトランゲージ） **【資料3】**

・外観の写真から分かることをできるだけプリントに記入し、発表する。

・床下の活用を説明する。

・写真の一部を隠し、そこに何があるか想像させ、発表する。（隠していた部分を見せる）

・家の中の写真から分かることをできるだけプリントに記入し、発表する。

・前述のバイクや電気が通っていることなど日本と変わらないことに気付かせる。

③自分の生活を振り返る

・ふだんの生活の中で環境に配慮したくらしができているか、どんなことをしているかプリントに記入する。

・隣の人の意見の聞き取りを行なう。

・環境に配慮したほうが良いと思っているのにできていないことをプリントにまとめる。

④モーハイ村で暮らす人々の環境に配慮したくらしの紹介 **【資料3】**

・環境問題は生活に密接にかかわっているからこそ、生活の中でできることが持続可能な取り組みの第一歩となることを説明する。

【資料3】 パワーポイントの抜粋

毎時の授業は、教師側の予想とはまったく異なるところで時間を取ることも多々あったが（例えば「住まう」の授業でモーハイ村の家の外観を使ったフォトランゲージの場面で、ある生徒が「屋根の一部にトタンのようなところがある」という発言をした際、他の生徒が「トタンってなに？」と質問したことから話がどんどんそれてしまった）、異なった領域で手法を変えながら実践できたことは良かった。また、どのクラスでも同じテーマで授業を展開したが、クラスによって反応が異なりおもしろかった。ただ、今回の研修で得たことを授業に組み込むことを考えたときに、「ここでベトナムの話をする必要があるのだろうか」という疑問が自分の中に起こることもあり、「研修」＝「実践（教材化）」の難しさを感じた。

３．成果と課題

ベトナムに発つ前から、そして帰国後も「どのような形で授業実践をするべきなのか」、散々迷った。私が見たベトナムをまとめた形で一つでも多く生徒に伝えることが良いのか、日ごろの教科活動の中でベトナムについて折に触れ実践することが良いのか・・・。最終的には時間数の確保を優先し、後者の方法で実践することにした。それぞれの領域で十分な時間をとって実践することはできなかったが、自分たちのくらしと世界がどのようにつながっているのか、またその背景にある問題は何か、といったことを考える時間を取ることができたことは良かったと思う。また、最近の子どもは自分の興味のあることにしか反応しない、と思われがちであるが、実践を通じてこちらの手法次第で子どもたちの知的好奇心が広がる可能性があることを痛感した。

今後の課題は、体験型学習や開発教育を特化したものと捉えず、教科を越えた学校全体での長期的・体系的なカリキュラムを構築することが必要であると考える。子どもたちが、学習活動を通して世界の現状を「知り」、問題や課題について「気づき考え」、自分にできる「行動」を起こし、自分だけの価値観から地球規模の価値観を育むよう、よりよい授業ができるよう努力したい。

参考資料

『世界がもし１００人の村だったら』
マガジンハウス　池田香代子／再話Ｃ．ダグラス・ラミス／対訳
『ポプラディア情報館　世界の料理』　ポプラ社
『ユネスコ世界遺産４　東アジア・ロシア』　講談社
『教室から地球へ　開発教育・国際理解教育』　国際協力機構　中部国際センター
「ハンガーマップ」　ＷＦＰ国連世界食糧計画発行
「世界一受けたい授業」　日本テレビ放映